

国際交流つうしん

令和2年度は101・102合併号(R2・9月)及び
103号(R3・3月)の発行2回と致します。



サハリン大学にて
(p2. 特集「千葉県国際交流センターは
設立30周年を迎えました！」)



ベリーズの小学生たち
(p10. 千葉県から世界へ！～ベリーズ～)

目次

- P.2～3 特集 千葉県国際交流センターは設立30周年を迎えました！
- P.4 新型コロナウイルス禍の外国人相談 / 災害時の外国人支援の在り方
- P.5 千葉県多文化共生推進プランが策定されました
- P.6～7 事業報告(令和2年3月～8月)
今後の行事予定 / 気になるトピック「来年のオリ・パラ大丈夫？」
- P.8 あなたの街の国際交流・協力団体
～千葉県JICAシニアボランティアの会
- P.9 JICA千葉デスクのページ
- P.10 千葉県から世界へ！ ～ベリーズ～

広告

水野外語学院

日本語で日本語を勉強します。
いろいろな国の人と
一緒に勉強します。
赤ちゃんが言葉を覚えるように、
楽しく、自然に日本語が話せるようになります。



MIZUNO GAIGO GAKUIN

〒272-0133 千葉県市川市行徳駅前4-19-14
TEL: 047-397-9645 FAX: 047-397-3078

広告

「日本語を教える」としたら **スリーエーネットワーク**



介護に関わる外国人の ための日本語教材

シリーズ 第3冊! 10月発売予定

はじめて学ぶ介護の日本語
生活知識とコミュニケーション

Part 1: 生活知識(初級レベル～)
Part 2: コミュニケーション(中級前半レベル～)
豊富なイラスト・写真、練習問題で学べます。
同シリーズ『基本のことば』『基本の知識』好評発売中!

三橋麻子・丸山真貴子・
堀内貴子・鈴木健司 著
本体1,500円+税 B5判

最新刊や教材の使い方セミナーの情報等は <https://www.3anet.co.jp/>



千葉県国際交流センター 30周年を迎えて

(公財)ちば国際コンベンションビューロー

代表理事 伊藤 稔

会員・関係者の皆様、日頃より当財団の活動に御理解、御協力をいただきまして、ありがとうございます。このたび、千葉県国際交流センターは設立30周年を迎えることとなりました。

1990年設立当初は、国が多くの日系人を受け入れたことで、外国人の県への定住化が始まり、また千葉県では米国ウィスコンシン州との姉妹都市提携が開始された年でもありました。

当時はウィスコンシン州との交流事業を中心に、大規模な交流イベントや国際スポーツ大会が頻りに開催され、たくさんの方々が通訳やホームステイの受け入れ、日本文化を紹介するボランティアとして、大活躍されました。これらの事業を支えて下さったボランティアの方々の中には、ここ数年、当財団MICE事業部が誘致した国際会議でのボランティア通訳として活動頂いた方や、来年度に延期された東京オリンピック・パラリンピックの大会ボランティア、都市ボランティアとしての活動を予定されている方、そして新たなボランティア団体を設立し、外国人住民の言葉のサポート役として日々奮闘されている方もいらっしゃいます。

現在、千葉県には16万人以上の外国人住民が暮らしています。2000年の「難民認定法」施行、2007年の「技能実習制度」の導入、さらに2008年に政府が打ち出した「留学生30万人計画」などにより、外国人人材を受け入れる動きが加速する中、千葉県国際交流センターの役割は徐々に「国際交流」から「外国人支援」へとシフトしてきています。

支援拡大のニーズから、外国人住民に日本語の学習支援をする「日本語ボランティア」及び2011年に発生した東日本大震災後には、災害時に外国人をサポートする「事業ボランティア」を創設しました。ボランティアの方々を養成するための「日本語ボランティア基礎講座」や「災害時サポーター養成講座」を毎年開催しており、たくさんの方にご参加いただいています。

2004年に千葉県から「外国人テレホン相談」を4言語対応で受託して以来、県内に住む外国人の悩み事の解決に16年間尽力して参りました。昨年には13言語対応に拡充して「千葉県外国人相談」として新たなスタートを切り、今年4月の新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言発令後は、例年の2倍以上、過去最大の相談件数となりました。

そして、昨年、「特定技能」の在留資格が新たに加わったことで、今後も外国人住民はますます身近に感じられるでしょう。千葉県国際交流センターは、言語・文化・習慣の違いを認め合い、全ての県民が地域社会の一員として共に生きていく多文化共生社会づくりへとまい進し、会員の皆様方、関係団体や在住外国人の皆様方と連携しながら、既存事業の発展と、新たな事業の推進に努めてまいります。皆様の更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。



千葉県国際交流センター 30周年を祝して

(一財)自治体国際化協会

理事長 岡本 保

千葉県国際交流センターが、設立30周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

また、この30年間、貴センターが、地域の国際化の推進に多大な貢献を果たしてこられましたことに対し深く敬意を表します。

我が国における地域の国際化は、「国際交流」、「国際協力」、「多文化共生」を柱として、各地域の地域国際化協会が、その推進拠点として中核的な役割を担ってきました。

近年、政府が取り組む「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」等により、受入環境の整備が進むなど、多文化共生を取り巻く情勢は刻々と変化しています。外国人住民の多国籍化や家族滞在を伴う定住化の進展に伴い、ライフサイクルまで見据えた支援が必要となっており、さらに自然災害の多発や、この度の新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、前例がない事態におけるその支援等の在り方も含め、課題はますます複雑化しています。

そのような中、貴センターにおかれましては、県民と共に、外国人支援ネットワークを形作る取り組みとして、語学ボランティアや通訳ボランティアの育成に成果を上げられるなど、地域の国際交流や多文化共生の基盤整備を熱心に推進してこられました。幣協会の「多文化共生まちづくり助成事業」も積極的にご活用いただき、外国人の医療機関受診を支援する医療通訳の養成や、外国人の就労に役立つ介護の知識を学ぶ講座の開催など、地域の多文化共生を担う人材の育成に熱心に取り組まれ、また、外国人児童とその保護者のために、学校からの連絡文書の多言語化を充実させるとともに、日本人の児童に対しても多文化共生に係る授業を実施するなど、地域のニーズに合った施策を展開してこられました。

すでに県民の40人に一人が外国人である千葉県において、外国人住民が地域の担い手として日本人住民と共に地域づくりを推進していくにあたり、貴センターの果たす役割はますます重要なものとなってまいります。

貴センターが、地域の国際化における推進拠点として、この30周年を礎になお一層の発展を遂げられますことを心から祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

設立30周年を迎えました！

千葉県国際交流センター 30年の歩み

1990年	・財団法人千葉県国際交流協会設立 ・米国ウィスコンシン州との姉妹都市提携
1991年	・国際交流つうしん第1号 発行 ・第41回世界卓球選手権 千葉大会を支援
1992年	・千葉県国際交流センターオープン ・第1回日本語ボランティア養成講座開催
1993年	・新たな「国際交流ボランティア制度」発足
1994年	・JICAアセアン諸国成年招聘事業開始
1995年	・姉妹県州ウィスコンシン友好の旅 実施
1997年	・「民間文化大使」紹介事業開始 (現在は、ちば出前講座) ・ホームページ開設 ・アセアンフォーラム開催
1998年	・長野オリンピックでボランティアが活動
2000年	・ウィスコンシン州文化使節団招聘事業 (隔年で実施) ・サバイバル日本語講座を開催(～2006年)
2001年	・(財)千葉コンベンションビューローと統合し、 (財)ちば国際コンベンションビューローに 名称変更 ・外国人のための無料法律相談開始 ・外国人学生住居アドバイザー事業開始 ・ちば地球市民のつどい(～2004年) ・第6回 ワールドゲームズを支援
2002年	・FIFAワールドカップを支援 ・JAPAN-KOREA市民交流フェスティバルを支援 ・JICA千葉デスクの設置
2004年	・千葉県外国人テレホン相談を受託
2005年	・医療通訳ボランティア研修開催
2006年	・学校からのおたより 6言語を発行
2007年	・グローバルフェスタCHIBA (現在は国際フェスタCHIBA) 開催 ・災害ボランティア研修 開催
2011年	・「日本語ボランティア」制度の発足
2013年	・財団法人ちば国際コンベンションビューロー・ 公益財団法人に移行。 ・医療通訳ボランティア養成講座・セミナー開催
2014年	・外国人のための介護講座 開催 ・国際キワニス年次総会を支援(MICE誘致)
2015年	・オリンピック・パラリンピック向け 「通訳ボランティア養成講座」開始(～2019年) ・「事業ボランティア」制度の発足 ・第9回国際中欧・東欧研究協議会(ICCEES) 幕張世界大会を支援(MICE誘致)
2016年	・日本地球惑星科学連合2016大会を支援 (MICE誘致、～2019年)
2017年	・ホームページリニューアル ・FACEBOOK 開設
2018年	・「学校からのおたより」 7言語に拡充 ・世界女子ソフトボール大会を支援
2019年	・千葉県外国人相談事業 13言語に拡充 ・世界柔道選手権を支援 ・ワールドテコンドーグランプリを支援
2020年	・多文化共生出前講座(小学生版)の実施

語学ボランティア 瀬下和正さん

千葉県国際交流センターの設立30周年、おめでとうございます。協会が発足した1990年の前年に幕張メッセが開業し、翌年千葉県で初めての国際大会・世界卓球選手権が同所で開催され千葉県が国際化で輝いた年になりました。

第1期通訳ボランティアとして参加し、各種の国際大会、国際会議に通訳として参加できた事は嬉しく誇りに思います。この活動を契機に八千代語学ボランティアの会を設立しその後、八千代市国際交流協会の発足につながりました。



服部八千代市長(左)の通訳をする筆者

ホストファミリーボランティア 添野良一さん

私の国際交流は、外国人と接したいという憧れのような気持ちから始まりました。千葉県は30年前にアメリカのウィスコンシン州と姉妹都市の提携をし、交流を続けています。私は、県国際交流センターからの依頼で、1994年(H6)の同州との交流事業で若いアメリカ人夫婦のホームステイを受け入れました。その後、私は、仕事でウズベキスタン、マレーシアにそれぞれ2年間滞在しました。定年後は、剣道の指導でシニア海外協力隊として1年間活動することができました。国際交流を通じて、地球は一つの村になったように感じています。



文化ボランティア 赤木静香さん

私は日本の伝統楽器「箏と三弦」を演奏、指導しています。国際交流センターでは、外国の方と箏の体験を通じて交流させていただきました。私自身、海外にも箏を持って行き交流を続けています。アメリカ西海岸、パナマ、パラグアイ、ブラジル等での多くの人との出会いは言葉が通じなくても、楽器を介しての楽しい思い出ばかりです。今は地元周辺の小・中学校で琴の音楽教室を開催し、次世代を担う子供たちに、伝統楽器の楽しさを知ってもらおう活動をしています。今後も日本文化の素晴らしさを発信していきたいです。



研修室より MAVIS 邊田浩子さん

設立30周年おめでとうございます。千葉県国際交流協会設立の翌年、第1回語学ボランティア研修後、有志10数名で英語の勉強会を立ち上げ、会員の故・高橋昭治氏に講師を依頼し、月1度の活動が始まりました。TIME・PBSを教材に、政治・経済・宗教・民族・環境等のテーマで、会員の見識を高めていきました。この期間、幸いにも研修室の提供を受けることができました。英語の通訳としてのボランティア活動は、ユネスコ会議レセプション、PPC、IDEAS、弁護士会、谷津干潟観察、茶華道体験教室等、多岐に亘ります。今後も一同、楽しく有意義な親善交流活動を続けて参ります。



新型コロナウイルス禍の外国人相談

いまだ出口の見えないコロナ禍は、日本人同様、在住外国人の生活にも多くの不安をもたらしました。感染の不安、雇用の不安、家計の不安など。それを反映して、5月度の千葉県外国人相談は、これまでの月平均比で8割増の件数がありました。その中で、痛切に感じたことは、外国人には日本人にない二つの決定的な壁があるということです。

①言葉の壁

症状をうまく説明できないもどかしさと、容易にPCR検査にたどり着けない不明瞭な制度に加え、次々と打ち出されては修正が加えられる救済策は、日本人でもついて行くのに苦労しています。まして外国人においては、なおのことです。個人における休業支援金・給付金、特定定額給付金、住居確保給付金、緊急小口資金貸付金など、制度は次々と発表されましたが、いつから、何処で、どの様にしての具体的な詳細情報は後追いで、いざ申請するにしてもまた言葉の壁が立ち塞がり、皆さん一様に右往左往しています。

②入管法の壁

在住外国人が「日本人」でないことをあらためて痛感させられました。新規外国人の来日が制限されましたが、すでに日本に住んでいる外国人でも一旦出国すると原則再来日できなくなりました。一例ですが、日本の某大学で教鞭をとる米国人男性は、春休みに米国に一時帰国してそのまま日本に戻れず、新学期は米国からのウェブ遠隔授業を開始せざるをえない状況となり、なんとか戻る方策はないだろうかとの相談を電話でしてきました。グローバル化が云われてすでに久しいですが、コロナ禍の影響で突然各国が門戸を閉ざす逆現象が起きています。日本に戻れない外国人がいる一方、日本から出国できずに、立往生している外国人もいます。今年3月に学校を卒業した留学生や研修を満了した技能実習生です。在留資格の期限がきて出国しないと不法滞在になりますが、この緊急事態に入管当局は短期滞在という仮の滞在許可を付与する特別配慮をしました。短期滞在とは来日観光客と同等の扱いです。ところが、短期滞在では1) 就労が認められない 2) 国内に居住地がないために日々の生活費にこと欠くほかに、特定定額給付金も支給されないという状況になってしまいます。この状況に対処するため短期滞在からさらに特定活動への在留資格に変更する措置がとられました。漸次、必要な対策が打ち出されているのが実情です。振り返ると、事態が新しい展開を迎える度に相談の内容も変化しています。どのような問合せにも真摯に対応できるよう、最新情報のアップデートに努めています。

災害時の外国人支援の在り方

千葉県では、2019年秋、台風15号や19号等の台風や大雨によって各地で甚大な被害がありました。日本では、台風や大雨だけではなく、地震、津波、火山噴火など様々な災害が発生しますが、日本語が不自由な外国人は「要配慮者」に位置付けられ、多くの人が支援を必要とします。

災害時に行政やメディアなどから発信される情報はほとんどが日本語で、普段使わないような言葉（豪雨、浸水、余震、罹災証明書など）も多用されます。日常会話に困らない外国人であっても、このような言葉を理解するのは難しいでしょう。

言葉だけではなく、母国で地震や台風などの災害を経験したことのない外国人には、“地面が揺れたら机の下に隠れる”、“台風の時は雨戸を閉める”、“避難する時は小学校や公民館などに行く”など、日本人なら知っているような災害時の行動を知りません。また、避難所でも文化・宗教・生活習慣の違いなどから日本人以上に生活に困難が生じることが多いのです。

千葉県国際交流センターでは、災害時にHPやFacebookでやさしい日本語や英語などを使って、災害に関連する情報を発信しています。特に、台風や豪雨など予測できる災害については、事前に情報を収集して、できるだけ迅速に情報提供を行い早めの避難につなげたいと考えています。

その他、被害状況、ライフラインの情報や生活再建に向けた情報も発信し、外国人が安心して日本に暮らせる手助けをしたいと思えます。

支援者の皆さまにはぜひシェアなどをして、当センターが発信する情報の周知にご協力いただきたいと思います。外国人を支援するボランティアの登録制度もあります。ご興味のある方はお気軽にお問合せください。

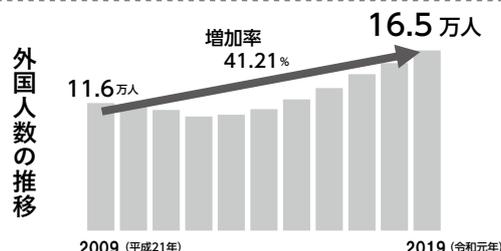


千葉県多文化共生推進プランが策定されました！

千葉県に在住する外国にルーツを持つ方は年々増加しており、言語・文化・習慣の違いにかかわらず、全ての県民が地域社会の一員として共に生きていく多文化共生の社会づくりの必要性が高まっています。そこで、県では、外国人県民を取り巻く課題を整理し、多文化共生の理念や方向性をとりまとめた「千葉県多文化共生推進プラン」を策定しました。

プランの背景

千葉県で生活する外国人の方（住民基本台帳による外国人数）は、この10年で4割以上増え、2019年（令和元年）12月末現在で16万5,162人と過去最高を記録しました。
千葉県は、全国6番目に外国人の数が多い県となっており、県内全ての市町村で外国人の方が暮らしています。



プランの基本目標

言語・文化・習慣の異なる外国人県民と日本人県民が、共に地域社会の一員として助け合い、安心して暮らし働き、活躍することのできる県づくり

主な取組

県では基本目標を実現するために、次の二つの施策目標の下で様々な取組を行っていきます。

I 外国人県民と日本人県民が、共に地域社会の一員として暮らし、活躍する県づくり

言語・文化・習慣の違いによって、外国人県民が孤立したり、日本人県民との間にトラブルが生じてしまうことがあります。

県は、同じ地域に住む人々がお互いを理解する意識を持っていただけるよう努めると共に、外国人県民による情報発信や地域活動への参加の促進等、外国人県民の活躍の場づくりを進めていきます。

II 外国人県民が安心して暮らし、働ける県づくり

外国人県民の中には、日本語でのコミュニケーションが不十分で、社会生活の様々な場面で意思疎通に支障が生じ、生活に困難を抱える方がいます。

県は、外国人相談窓口の運営や多言語での生活情報等の発信、地域における日本語教育の推進など、外国人県民が安心して暮らせるためのコミュニケーション支援を行います。

また、子どもの教育環境・住宅・医療・防災など、様々な場面での支援の充実を図っていきます。



多文化共生社会の実現に向けて

少子高齢化が進む中、地域の一員である外国人県民の方が増えることは地域に活力をもたらします。

県は、このプランに掲げた多文化共生の理念や方向性を県民の皆様や市町村、国際交流団体等と共有し、連携しながら多文化共生社会の実現を目指してまいります。

【参考URL】

●千葉県多文化共生推進プラン

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kokusai/press/2020/tabunkakyouseisuisinplan.html>

●千葉県外国人総合相談窓口（千葉県国際交流センター内）

電話：043-297-2966

月～金 9:00～12:00、13:00～16:00

対応言語：日本語・英語・中国語・韓国語・スペイン語・タガログ語・

ベトナム語・ネパール語・タイ語・ポルトガル語・

インドネシア語・ロシア語・ヒンディー語

https://www.mcic.or.jp/ja/support_for_foreigners/telephone_consultation/



千葉県国際交流センター 事業報告 (令和2年3月～8月)

◆新型コロナウイルスの影響下にて、令和2年2月に予定されていた「第2回国際理解セミナー」及び、3月の「外国につながる日本語ボランティアの集い」は中止になりました。

◆国際協力パネル展

千葉県ユニセフ協会、千葉県、JICA東京と共催で、そごう千葉店のそごうギャラリーにて、6月30日(火)から7月6日(月)まで、それぞれの事業を紹介するパネルや写真などを展示しました。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて一時開催が危ぶまれましたが、今年も無事に実施することができ、多くの方に足を止めて見ていただきました。



◆ちば出前講座 @千葉県生涯大学校 京葉学園 (オンラインで実施)

千葉県生涯大学校で在校生向けに実施されている「外国人とのコミュニケーションカアップ」では、ちば出前講座に登録するさまざまな国籍の外国人講師が活動しています。6月は感染症対策の観点から、バングラディッシュ出身の講師がオンラインで母国の紹介をしました。

◆ちば出前講座 @印西市 7月29日(水) (縮小開催で実施)

印西市では、7月に今年度初めての「異文化理解講座」を開催し、印西市民で台湾出身の講師が地域ごとの食文化や観光地について、講演を行いました。参加者の人数制限やマスク着用、換気など感染症対策を行っての実施でしたが、参加した方々からは多くの質問が出ており、興味・関心を持っていただけた講座となりました。

令和2年度 今後の行事予定

事業	内容	時期(予定)
国際交流ボランティア制度	語学、ホストファミリー、文化、事業、日本語の各ボランティアの登録、紹介は、感染症の状況、対策を確認したうえで、順次紹介を再開します。活動の情報提供は随時行っています。	随時
国際交流・協力等ネットワーク会議	民間交流団体や市町村国際交流協会担当者による情報交換。	オンライン開催
外国人相談担当者意見交換会	県内の外国人相談担当者向けの情報交換等、書面にて開催します。	書面開催
ホームページによる情報提供	在住外国人の生活情報やセンター事業の今後のスケジュール、新型コロナウイルスに関する情報を日本語、英語、中国語、スペイン語、やさしい日本語で発信。	随時
FACEBOOKによる情報発信	ボランティア活動情報、イベント情報、災害情報、日本語教室の情報などを発信。	随時
会報「国際交流つうしん」の発行	当センターの事業及び県内民間団体の活動等を紹介する会報の発行は、年2回に縮小し7月号と11月号は合併号として9月に発行します。	9月、3月
「国際交流伝言板」の発信	国際交流イベントや募集事業をホームページ等で紹介(日・英・中・西)しています。	随時
千葉県外国人相談事業	在住外国人の電話による生活相談への対応を13言語で対応しています。	随時
外国人のための無料法律相談	外国人の生活上の法的問題に弁護士、行政書士が対応。通訳手配も可。(原則第1月曜 行政書士は奇数月)	毎月
災害時外国人サポーター養成講座	災害時に外国人をサポートする人材を育成する講座を開催。	11月・1月
ちば出前講座	在住外国人・JICAボランティアOB/OG等を、感染症対策の確認をしたうえで7月より、団体や学校等に順次紹介を再開しています。	随時
国際フェスタ CHIBA	国際交流・協力団体の活動成果を展示等により、広く県民に広報。	中止
国際理解セミナー	県民に広く、国際理解を図る講座。今年度はオンライン開催を予定しています。	オンライン開催
コミュニティ通訳研修	在住外国人の生活支援に役立つ基礎知識を学び、語学の向上を図る講座。	中止
日本語ボランティア・スキルアップ講座	日本語ボランティアが日本語指導の向上を図る講座(全6日)	中止
日本語ボランティア基礎講座	日本語ボランティアについての基礎的な知識を学ぶ講座。今年度はオンライン開催にて検討中です。	検討中
日本語ボランティアの意見交換会	日本語ボランティア向けの講座及び参加者間の情報交換。	オンライン開催
語学ボランティア講座	MICE関連事業やスポーツ大会等のボランティア活動について学ぶ講座。縮小開催もしくは、オンライン開催にて検討中です。	検討中

◆地域日本語教育の総合的な体制づくり事業がスタートしました

千葉県では令和2年度、文化庁の委託事業として、県における地域日本語教育を推進するため、県内の日本語教育の実態及び外国人県民の日本語教育に関する実態調査を実施します。7月29日には第1回有識者会議が開催され、大学教授や日本語教育指導者など有識者が集まり、調査項目内容の検討を行いました。調査は9～10月下旬に実施予定です。実施後は結果を踏まえ、地域日本語教育推進の具体的な実施計画を策定します。千葉県国際交流センターも、同事業に県と連携して取り組んでいく予定です。

◆クレア助成事業「多文化共生出前講座」(小学生版)を実施します

自治体国際化協会(クレア)が助成する「多文化共生まちづくり事業」において採択が決定した「多文化共生出前講座」(小学生版)では、既存事業の「ちば出前講座」で実施している外国人講師による出身国の紹介を小学生向けにアレンジし、授業担当の先生方と協働してワークショップ型のクラス授業を県内の小学校2校でモデル授業として実施します。子ども達が外国を身近に感じることができ、異なるバックグラウンドを持つ方々との「共生」について考えるきっかけとなる授業の展開について教育関係者や外国人講師の協力を得て、検討していきます。実施後は動画を公開し、多文化共生を学ぶための教材として、多くの小学校で活用して頂きたいと思っております。



◆日本語ボランティア・オンライン意見交換会を開催します(10月28日)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日本語教室は活動を余儀なく中止した教室も多くある中、オンラインレッスンに切り替えてすぐに活動を再開した教室もあります。日本語学習支援に長年携わり、現在は社会福祉法人さぼうと21にて学習支援コーディネーターを務める矢崎理恵氏を講師に迎え、オンラインレッスンの事例紹介を交えながら、日本語学習支援者同士で現状困っていることや工夫していること、今後の日本語教室の在り方などについて情報交換をする会をオンラインで開催します。オンラインでのご参加が初めてという方も、ぜひお気軽にご参加をお待ちしております。

◆千葉県ユニセフ協会主催・「スポーツの力」 オンライントークイベントの開催 10月17日(土)

元バレーボール女子日本代表として活躍された、大山加奈さんにご自身の体験談を交えて「スポーツの力」についてお話いただくオンラインイベントが開催されます。トークセッション形式で、当財団千葉県スポーツコンシェルジュが、コーディネーターとして進行します。

また、JICA海外協力隊としてチュニジアで支援活動を実施した深林真理さんをゲストに迎え、開発途上国でのスポーツの現状についてご紹介します。スポーツが子供たちにもたらす価値、スポーツの果たす役割について一緒に考えてみませんか。たくさんの語学ボランティアの皆さんのご参加をお待ちしています！千葉県ユニセフ協会のHPからお申込みいただけます。

千葉県ユニセフ協会ホームページ
www.unicef-chiba.jp

千葉 ユニセフ 検索



お申込み
フォームは
こちら

◆オンラインで開催される「エコメッセ2020 in ちば」に出展します。11月1日(日)～

千葉県国際交流センターは、11月1日(日)からオンラインで開催される「エコメッセ2020 in ちば」に出展します。「エコメッセ in ちば」は、持続可能な社会の実現を目指して1996年から続いているイベントで、今年は「SDGs(エス・ディー・ジーズ)暮らし方変革」をテーマに開催されます。例年幕張メッセで開催されていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、今年初めてオンライン開催になりました。当センターでは、ボランティア向けの講座、ちば出前講座、千葉県外国人相談などの事業の紹介のほか、ボランティアの登録や賛助会員についてのご案内などを行います。

ぜひ開催ページを覗いてみてください！

エコメッセ in ちば 検索

気になるトピック 「来年のオリ・パラ、大丈夫??」

最近、様々な方にこの質問を受けます。

「どうなんでしょうね、「厳しいかもしれませんが」などしか答えられません。「日本の感染が広がってますからね」、「日本が感染を抑えられても世界の感染を抑えられますかね」、「ワクチンが間に合うかどうか」など、会話は決まった形で終息することになります。

正式な回答は、東京2020組織委員会が公表した「大会延期に伴う大会の位置づけ、原則、ロードマップ」にあります。ここでは、位置づけの中にコロナ以前、コロナの影響が併せて記載されています。

この文章を読み返すと、誰もが思い描いていたオリ・パラのイメージとは異なる大会になってしまうかもしれませんが、「実施する」という意欲が感じ取られます。



あなたの街の国際交流・協力団体

千葉県 JICA シニアボランティアの会
会長 三輪達雄



千葉県出身のJICAシニア海外協力隊（旧JICAシニア海外ボランティア）経験者は412人、派遣先は58国に及びます（2020年6月末日）。当会は、2003年に会員32名で船出しました。2019年度の会員数は99名ですが、会員相互の親睦、JICA経験を基にJICAの事業活動への協力、国際理解推進活動などを目的に活動を続けています。当会の国際理解推進活動の中心に出前講座があります。2013から2019年度までの実績では、公民館等延べ69施設での受講者数は延べ5,274人、小中学校延べ32校での受講者数は延べ8,611人でした。うらやす市民大学（2018、2019年）では全16講座、受講生合計は約460名でした。出前講座後、受講生の評価やアンケート結果をまとめた報告書が作成され、Webサイトに公開されます。

当会の定例行事には、年1回の総会に合わせた公開講演会、年2回の活動報告会と

それに合わせた「SVニュース千葉」の発行があります。その中で、南米のアルパ演奏、歌や踊りの実演など現地の文化に直接触れられる場が提供された例があります。小学校での講演では沢山の感想文を受取りました。多くの生徒さんが、JICAのビジョン「信頼で世界をつなぐ」に共感を示したことは逆に驚きました。このように、当会員の講演は、自前の写真を多用し、実際の経験を盛り込んだ講話なので、どの年代の受講生にも分かりやすく、ご好評をいただいております。また、国際フェスタCHIBA、浦安市多文化共生フェア、ちば市国際ふれあいフェスティバルなどにも例年参加してきました。ただ、2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの催しが中止になりました。当会の活動や最新情報はWebサイトに掲載されますのでご確認くださいませ。



URL: <http://www.chibajicasvob.com/index.html>

出前講座URL: http://www.chibajicasvob.com/public/lecture_ondemand/ondem-lecture-guide_202007.pdf

Email: chibajicasv02@gmail.com

10月1日現在で国勢調査を実施します！

日本に住む全世帯参加の
国勢調査はじまります。

5年に1度の日本で最も重要な統計調査「国勢調査」を、2020年（令和2年）10月1日現在で実施します。「日本に住む人や世帯」について知ることで、生活環境の改善や防災計画など、わたしたちの生活に欠かせない様々な施策に役立てられる大切な調査です。みんなが参加して、みんなが日本の未来をつくっていく。100年目の「#みんなの国勢調査」。9月14日からインターネット回答がはじまります。



Let's Join!!
#みんなの国勢調査

インターネット回答期間 9/14 10/7

かんたん便利なインターネット回答

国勢調査2020

https://www.kokusei2020.go.jp/

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

国勢調査をよそおった詐欺（さぎ）や不審な調査にご注意ください。

国勢調査2020

経済産業省 国土交通省 総務省 自治体

【詳細はこちら・日本語】



【公式HP】

www.kokusei2020.go.jp



【公式回答ページ】



@kokusei2020

【公式ページ・多言語版】



【英語】

www.kokusei2020.go.jp/en/



【中国語・簡体字】

www.kokusei2020.go.jp/cn/



【中国語・繁体字】

www.kokusei2020.go.jp/tw/



【韓国語】

www.kokusei2020.go.jp/ko/



【スペイン語】

www.kokusei2020.go.jp/es/



【ポルトガル語】

www.kokusei2020.go.jp/pt/



【ベトナム語】

www.kokusei2020.go.jp/vi/

国勢調査とは？

5年に一度実施される、日本で最も重要な統計調査です。外国人の方も回答の対象となります。インターネットでも回答できます。調査結果は災害時に必要な物資を備えたり、コンビニの出店計画に利用されるなど、身近な暮らしに活用されています。

新型コロナウイルスの影響で待機しているJICA海外協力隊の活躍の場を探しています

2020年3月、JICAは世界的な新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、発展途上国に派遣しているJICA海外協力隊、約1800人全員を一時的に帰国させることを決めました。ロックダウンで帰国便がなくなる危険性もあり、「明日の便で帰国です。すぐに必要な物だけを持って首都のJICA事務所に集合してください」と告げられ、お世話になった現地人に挨拶もできず、ほとんどの荷物も置き去りで帰国した隊員が大半です。帰国した隊員たちは2週間の隔離生活の後、それぞれの場所で再派遣の見通しが立つまで待機しています。

また、派遣前の70日間の訓練が終わって派遣を待つのみだった隊員、職場を退職し訓練を控えていた隊員なども合わせ、一時約2500人が状況の好転を願い待機していました。中には、着任して3ヵ月で任地の課題が見え始めてきたときに帰国となった隊員もいれば、任期終了3ヵ月前で活動の締めを行うこともできず帰国し、気持ちを切り替えられないまま日本で任期終了を迎えた隊員もいます。現在待機中の隊員は再派遣の見通しが立つまで日本国内での地域貢献活動（農業やボランティア活動）、企業やNGO/NPOへのインターンをしています。JICA海外協力隊員は、教育、保健衛生、スポーツ、農業、ビジネスなど様々な分野で実践経験を積み、世界や社会の問題を解決したいという意思を持っています。現在日本でも多くの問題がある中、社会の問題解決に意欲のある待機中隊員を受け入れて下さる団体を探しております。ご質問やご連絡は、JICA千葉デスクまでお願い致します。

スポーツ × SDGsイベントの開催

2020年5月29日、浦安市にホームグラウンドを持つシャイニングアークスのトンガ出身選手とJICA海外協力隊経験者に、「トンガ王国」についてご紹介頂きました！

初のオンラインイベントは計4000人を超える方々にご参加いただき、登壇者のお話もチャット上の質問も大盛り上がり！「トンガの生活や文化」「トンガでの協力隊活動経験」を楽しく知ることができ、遠い島国を身近に感じるきっかけとなりました。

シャイニングアークスさんとJICA千葉デスクのコラボイベントは、2019年12月7日に開催された南アフリカ出身選手とのトークショー、『ラグビーを通してSDGsを学ぼう』に引き続き2回目で、毎回大盛況をいただいています。第3弾も企画しておりますので、ご期待ください！



JICA千葉デスク交代のお知らせ

みなさま初めまして。2020年6月より、安達夏美に代わりJICA千葉デスクを担当させて頂くことになりました木村明日美（きむら あすみ）と申します。生まれも育ちも千葉県流山市の生粋の千葉っ子です。私は2017年10月から2019年10月までJICA海外協力隊として中央アジアのキルギスで青少年活動に携わっておりました。協力隊参加前はどこにあるのかもわからなかったキルギスという国は、今では私にとって第二の故郷です。これからは私の第一の故郷千葉県で、千葉県と世界が繋がるようなお手伝いをしていきたいと思っております。国際協力、国際交流、学校での異文化理解講座、NGOとの連携、草の根技術協力事業、企業の海外展開支援、海外協力隊などについてご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。



千葉県国際交流センター内 JICA千葉デスク 国際協力推進員 木村 明日美
 TEL : 043-297-0245 / 090-4024-0441
 FAX : 043-297-2753 E-mail : jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp



千葉県から世界へ!

ベリーズ



※外務省ホームページより引用

2018年から今年3月まで、環境教育隊員として、ベリーズで活動していた木村諒子さんと、過去に青少年活動隊員としてベリーズに派遣された経験があり、現在は横芝光町企画空港課でホストタウン事業を担当されている村田浩子さんに、それぞれの視点でベリーズについてご紹介いただきました。

ベリーズについて



ベリーズは中米のユカタン半島の東部に位置する人口約38万人の小さな国で、首都はベルモパンです。日本人にはあまり馴染みのない国かもしれませんが、通称「カリブ海の宝石」と呼ばれる程美しい海と珊瑚礁に恵まれていて、欧米人のリゾート地としても有名です。オーストラリアに

続き世界第二位の規模のサンゴ礁を保有していて、保護区にあるグレート・ブルー・ホールは世界遺産に登録されています。



ベリーズは多民族国家で、クレオールというアフリカ系民族の他に、ラテン系、マヤ系、東インド系など多様な文化を持つ国で、多くの人がスペイン語を話しますが、英語が公用語として使われています。

食文化も各地域によって特色があり、北部ではタコスなどのメキシコ料理、内陸部ではマヤ料理、湾岸部では新鮮な海産物を使ったカリビアン料理など、豊かな食文化を持つ国です。その中でも、定番の食事は「ライス&ビーンズ」という豆と一緒に炊いたお米に、柔らかく煮込んだ鶏肉や豚肉、揚げたバナナを添えたもので、ボリューム抜群で満腹になります。

ボランティアの活動

私は首都から南へ230km、バスで6時間移動した南部のプンタゴルダ町という所で活動をしていました。配属先は、町役場の衛生課で地域のごみ収集や清掃を担当する部署です。私は環境教育隊員として、地域の



自然を守り町の美化を推進するために、地域住民の環境意識の向上や正しいゴミ捨てのマナーを普及させる活動を行っていました。

地域の小学校を巡回して環境やゴミに関する

授業をしたり、衛生課の作業員のごみ収集に同行し、収集ルートへの調査を行い、地域住民向けのごみ収集のパンフレットを作成したり、地域の人々と清掃活動を

実施する事が中心でした。

また任期中には、日本の外務省の草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて、町役場に新しいゴミ収集車を寄付して頂く事が出来て、現在は地域のごみ収集がスムーズに行えるようになりました。こうした形で、日本の国際協力に関われた事は非常に貴重な経験でした。(木村諒子)

ホストタウンとの交流

2018年2月、東京2020大会におけるベリーズのホストタウンとして、千葉県横芝光町が登録されました。

これまで、JICA海外協力隊としてベリーズに関わりを持つ皆様のご協力の元、写真展、民族衣装や民族楽器の展示、ベリーズの小学生と横芝光町の小学生との絵の共作、数少ない在日ベリーズ人による小中学校での出前講座、そして、ベリーズのスティールパンオーケストラによる演奏などが実現しています。



東京2020大会後も、横芝光町とベリーズの交流が続くことを願うと共に、9月21日に39回目の独立記念日を迎えたベリーズを、ぜひ皆さんもチェックしてみてください。(村田浩子)



横芝光町ベリーズ応援団
Belize supporters

広告

入管手続きは行政書士にお任せ下さい。

申請取次行政書士に申請依頼をすると、申請人本人は**出入国在留管理局への出頭が免除**されるので、**仕事や学業に専念**することが可能です。

お問い合わせは…



千葉県行政書士会

www.chiba-gyosei.or.jp/

〒260-0013 千葉県千葉市中央区中央4丁目13番10号
TEL: 043-227-8009 FAX: 043-225-8634



公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー 千葉県国際交流センター

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14F

TEL: 043-297-0245 FAX: 043-297-2753 E-mail: ied@ccb.or.jp

<https://www.mcic.or.jp/>へgo!

センター事業の紹介、最新ニュース、講座やイベントなど役立つ情報を掲載。

年3回発行
(7,11,3月)